

1. 政治（南ア国内）

●上下院議長選出

6日、総選挙後初の国民議会（下院）が召集され、議員の就任宣誓並びに同副議長の選出が行われ、対立候補なしの満場一致でマックス・シスル氏が新国民議会議長（下院）議長に、ノマインダ・ムフェクト氏（女性）が下院副議長に選出された。7日に開催された全国州評議会（上院）では、ムニンワ・マシュラング上院議長が対立候補なしの満場一致で再任された。

●ANC 対ジレDA 党首の中傷合戦

8日、ジレ西ケープ州首相（最大野党である民主同盟党首）は、西ケープ州の組閣を発表。大臣10名は全員男性で、ANC側はこの内閣は男女平等を尊重しない人種的多様性がない誤った選択だと激しく非難した。これに挑発されたジレ首相はズマ大統領を「女たらしの性差別主義者」と公言、これを受けたマレマANC青年同盟総裁はジレ首相を「人種差別主義者の小娘」と呼び激しく反論。ANC退役軍人協会も「西ケープ州を統治不能にしてやる」といった発言を行うなど、ジレ首相対ANCメンバーとの間で激しい中傷合戦が繰り広げられた。

●大統領就任式典

9日、大統領就任式典がプレトリアの大統領府で執り行われ、29名の国家元首と政府の長、7名の副大統領、56名の特派大使・閣僚・国会議長等が参加した。日本からは、森特派大使（元総理）、西村外務大臣政務官、小澤大使夫妻らが出席。ズマ大統領は就任演説の中で、規律、誠実、熱意を重んじ、献身的かつ勤勉に大統領職を全うする決意を表明した。また、国民全体の生活改善や貧困問題など直面する諸課題に対し、南ア社会のあらゆるレベルで国民が団結していくことの重要性を強調し、国民が一丸となって国造りに取り組んでいくことを呼びかけた。

●南ア新内閣発足

10日、ズマ新大統領は組閣を発表。モトランテ前大統領は副大統領に就任し、大統領府内には新たに、国家計画委員会（NPC）が設置されマニユエル前財務大臣が担当大臣に就任した。また、右計画の実施モニタリングを行うためのモニタリング・検証・運営担当部門も設置され、コリンズ・チャバネ氏（前リンボポ州財務・経済開発大臣）が担当大臣に就任した。

大統領府の再編に加えて、外務省は「国際関係・協力省」に名称が変更になり、インドやマレーシアで大使を務めた経験があるヌコアナ＝マシヤバネ氏（女性）が大臣に就任。経済開発省や、地方開発・土地改革省、女性・青年・児童・身体障害者省は新設、元鉱物・エネルギー省は鉱業省とエネルギー省に分割される等、大幅な再編が行われた。

2. 外交

●ヌコアナ＝マシヤバネ新大臣の就任記者会見

14日、ヌコアナ＝マシヤバネ国際関係・協力大臣による就任の記者会見が行われた。外務省からの名称変更の他、新たな外交イニシアティブは世界的な景気後退を受けて抑制を余儀なくされる旨を述べ、最近物議を醸した南アの外交立場、特に、ミャンマーとジンバブエ問題については従来の立場を述べたものの、ダライ・ラマについてはいつでも歓迎すると述べて注目された。またヌコアナ＝マシヤバネ新大臣は、南アの命運は発展途上国、とりわけアフリカ諸国と強く結びついている旨強調した。

●ヌコアナ＝マシヤバネ新大臣の初外遊

15日、ヌコアナ＝マシヤバネ国際関係・協力大臣は、大臣就任後初の外遊として、アンゴラを公式訪問。同国滞在中、ヌコアナ＝マシヤバネ大臣はアンゴラ外相と会談し、ドス・サントス大統領を表敬した。同訪問

において、年内にズマ大統領がアンゴラを訪問することが発表された。

●南ア政府のスリランカ情勢に関する声明の発表

21日、南ア国際関係・協力省はスリランカ情勢に関する声明を発表。インド系のエブラヒム副大臣が発表した同声明では、南ア政府はスリランカ政府のLTTE掃討作戦の遂行のあり方に懸念を表明し、国連人権理事会に国際人権法及びジュネーブ人道法に反する行為がなかったどうかの調査を要請、スリランカ政府には紛争地域に対するメディアのアクセスを許可するよう求め、双方の平和と和解に向けた努力を支援する旨述べた。南アにはタミル系のインド移民が多く在住しており、スリランカ情勢に対する関心は高い。

●南ア政府のアウン・サン・スー・チー女史拘束に関する声明の発表

22日、南ア国際関係・協力省はミャンマー情勢に関する声明を発表し、アウン・サン・スー・チー女史の逮捕に懸念を表明。ミャンマー当局に対して同氏の即時解放を呼びかけた。当地各紙は、ズマ政権下で人権問題についてより積極的に取り組もうとする外交当局の姿勢の現れであると指摘している。

●北朝鮮核実験に対する非難声明の発表

25日、南ア外務省は北朝鮮による地下核実験に対して、深い懸念を表明し、実施されたとされる核爆発は決して受け入れられないものであるという強い声明を発表した。同声明で南ア政府は北朝鮮に対し、核拡散禁止条約（NPT）への復帰および包括的核実験禁止条約（CTBT）への加盟・批准を呼び掛け、北朝鮮の核計画を国際原子力機関（IAEA）のセーフガードの枠組み内に位置付けることを求めている。

3. 経済

●経済成長

南アフリカの経済成長は09年第1四半期にマイナ

ス6.4%（年率）を記録した。これはここ25年で最大の落ち込みであり、92年以来初の不況に入ったことを意味する。第1四半期に鉱山生産高は32.8%、製造業生産高は22.1%の落ちこみを見せたが、これは1960年の記録開始以来、最大の落ち込み。金融サービスと小売業販売高も縮小し、今期は政府の公的支出部門である建設、個人サービス、および政府サービスのみが成長した。南アの投資銀行のStanlibは、今年のGDP成長率はマイナス2.2%まで落ち込むと予測している。

●インフレ

消費者物価指数（CPI）は4月に前年同月比で8.4%上昇し、3月の8.5%から下がったが、予測値の8.3%を上回った。アナリストは、中央銀行が第1四半期のマイナス6.4%（年率）という経済成長率の低迷をうけて、政策金利のさらなる切り下げを検討していると指摘。今年に入ってから対ドルで17%も強まったランドも、金利切り下げを後押しする要因であるとした。

●雇用

09年第1四半期の公式失業率は08年第4四半期の21.9%から1.6%上昇して23.5%となり、この間20万人以上が職を失った。非求職者も含む拡大失業率は、同時期に29.3%から31.2%へ増加した。失業率の上昇は南アの深刻な不況を示している。

●製造業生産高

製造業生産高は2月の15%の落ち込みから、3月に前年同月比で11.7%の落ち込みへと若干回復した。08年第1四半期と比較すると、09年第1四半期に6.8%下がった。南アの投資銀行であるInvesticは購買担当者指数（PMI: Purchasing Managers Index）は3月の36から4月に35.6に下がった。南アの製造品輸出に影響を与える世界経済の低迷にともなって、南アの製造業は12カ月連続で縮小中。

●自動車販売

南ア自動車生産者協会(Naamsa)によると、国内新車販売台数は08年4月の42,325台から09年4月の24,063台へと43.1%落ち込んだ。自動車販売は07年4月から減少し続けている。軽商用車の販売台数は前年同月比で49.6%の落ち込みを示した。

●小売り販売

小売り販売は3月に前年同月比で記録的に急激な5.3%の落ち込みを見せ、前年第1四半期比でも、09年第1四半期は2.9%の落ち込みにまで縮小した。

●企業倒産

南ア統計局によると企業倒産件数は増加の一途をたどっている。09年1月～4月の倒産件数は、08年1月～4月比で、45%増加した。4月の倒産件数は41.3%増加し、349件となった。支払不能に陥った企業件数は、09年第1四半期に08年第1四半期比で10.5%まで増加した。

●政策金利

南ア中央銀行は5月に1%の政策金利の切り下げを実施した。ムボウェニ中銀総裁は長引くインフレを考慮して、さらなる利下げは実施しないことを示唆した。マイナス成長と不況の始まりは、金融委員会に政策金利を7.5%まで切り下げることと決断させた。ムボウェニ総裁は09年第1四半期のマイナス6.4%（年率）の成長率から若干の改善はあるものの、第2四半期も引き続きマイナス成長に留まるであろうと述べた。

4. 広報・文化

●モーリシャス、ワールドカップに宿舍を提供

10日、ダーバンで開催された2009年観光博において、ルク・ドヴァル・モーリシャス副首相兼観光相は、モーリシャスが2010年南ア・サッカーワールドカップの公式宿舍提供地となることを明らかにした。FIFAの宿舍担当部門によると、既にボツワナ、モザン

ビーク、ナミビア及びスワジランドが南ア・サッカーワールドカップ運営委員会(LOC)と宿舍提供契約を結んでいる。同運営委員会のダニー・ジョーダンCEOは、モーリシャスの加入は南部アフリカ地域のワールドカップに向けたコミットメントをより一層強化するものと述べた。

●コンフェデ・チケット電話販売

6月14日から開催されるコンフェデレーションズ・カップのチケット販売促進のため、10日、FIFAは電話による同カップのチケット予約販売を開始した。FIFA広報担当はタイムズ紙の取材に対し、既に35万枚のチケットが販売されたが、未だ29万枚のチケットが売れ残っており、電話による予約販売開始により、インターネットへのアクセスを持たないファンの取り込みを期待していると述べた。他方、2010年ワールドカップのチケットに関しては、第2期販売のうち、開幕戦、準決勝戦、決勝戦、英国、ブラジル、アルゼンチン、オーストラリア、アイルランド及びオランダ戦が既に完売となっている。

●警備会社最大手のG4S、2010年ワールドカップには関与せず

20日、警備会社世界最大手のG4Sは、ロイター通信に対し、南アフリカはイラク及びアフガニスタンに次ぐ危険な治安状況にあり、南ア・ワールドカップ運営委員会(LOC)による警備対策状況の不十分さを指摘し、同カップへの警備対策事業に携わらないことを明かにした。これに対し、南ア国家警察は、同カップの全般的警備は国家警察、国防軍、インテリジェンス・サービスにより行われ、民間警備会社との契約はLOCの裁量によってのみ決定されると述べ、また同運営委員会のダニー・ジョーダンCEOは、個別民間企業の判断に反応するつもりはないが、警備対策はLOCの最優先事項であり、また、南アフリカは過去に国連環境サミット、ラグビー・ワールドカップ等

146 もの大型イベントを主催した経験があり、2010年サッカー・ワールドカップも同様に成功裏に開催されるであろうと述べた。南ア国家警察は既にワールド・カップに向けた警備対策計画をF I F Aに提出しており、6月には更に詳細な計画が提出される予定。

●コンフェデレーションズ・カップ開催都市で飛行規制を実施

28日、南アフリカ航空局は、コンフェデレーションズ・カップが開催される前日の6月13日から28日までの間、同会場となるプレトリア、ヨハネスブルグ、ブルームフォンテン及びラステンバーグの上空を飛行規制対象とすることを表明した。規制対象となるのはプライベート旅客機及びチャーター機で、通常便のみ飛行が許可される。

5. 警備・治安

●偽警官による在留邦人被害

(1) 13日午前11時頃、Beyers Naude Drive上をフオーウェイズ方向へ在留邦人が車で走行中、ナンバープレートの付いていないベンツ（淡い黄色）に乗車した2人組みの中近東系の男が、警察官IDのような物を見せて停車を求めてきた。1人が降車してきたが、IDが一見して偽物であったことから指示に従わなかったところ立ち去った。

(2) 20日午後1時頃、R21上をサントンからオリバー・タンボ国際空港方向へ在留邦人が車で走行中、BMWに乗車した2人組みの男がハザードランプを点滅しながら接近、警察官IDのような物を見せて停車を求めてきた。パスポートと所持品を呈示したが、後刻小物入れの中の携帯電話1台が盗られているのに気づいた。

(3) 23日昼間、観光客（邦人を含む）がオリバー・タンボ国際空港付近を観光バスで走行中、普通乗用車に乗車した3人組みの男（中南米系）が警察官IDのような物を見せて停車を指示した。車から降車してきた男が「タイ人不法就労者の取締りをしているが、君

たちはタイ人か。」と質問してきた。タイ人ではない旨を伝えたところ、窓越しに数名の者に対し所持品の呈示を求めてきた。戻されたバッグの中から240米ドルが盗られていた。